

ようこそ、ナビラ・アリスタさん

2021年3月、エイピーピー・ジャパン株式会社とユニバーサル・ペーパー株式会社は、社会貢献の一環としてインドネシアの留学生ナビラ・アリスタさんをインターンとしてお迎えし、SDGsに関するAPPの環境取り組みや、PR 業務のひとつであるエッセイ・ライティングを学んでいただきました。

ここでは、その際にナビラさんが書かれたエッセイを紹介いたします。



はじめまして ナビラ・アリスタです

私はインドネシアの首都ジャカルタで生まれました。初めて日本にやってきたのは2010年、中学生のときです。父の仕事の関係で来たのですが、たちまち日本に恋をしました。特に日本の美味しい食べ物！もっと長く日本に住みたくて、私は高校を卒業した後、日本で勉強することにしました。

入学したのは、温泉で有名な別府にある立命館アジア太平洋大学です。その後、同大学院の修士課程に進み、現在は博士課程で学んでいます。卒業後数年間は社会経験を積むつもりです。

お休みにはよく国内を旅行します。これまで、北海道や沖縄県、長崎県、広島県、大阪府、京都府など、たくさんの地域に行きました。私はおいしいもの

に目がないので、新鮮なお魚や乳製品がある北海道はお気に入りです。

日本で暮らすようになって長いので、今では日本の生活様式にも慣れました。でも、初めて日本に来たときは、ハイテクなトイレに本当に驚きました。私にとって、日本でトイレを使うことは未知の世界に足を踏み入れるようなものでした。数々のボタンにさまざまな機能……。それだけでも混乱してしまうのに、水が流れる音を出すボタンまであるなんて！それに、便座に近づくだけで自動でふたを開けてくれるトイレまであるんです。最初、誰もいない個室で勝手にふたが開いたときは怖くて震えました。幽霊が出たと思ったからです。

キラキラ

インドネシアには「キラキラ」という言葉があります。「だいたい」や「てきとくに」という意味です。インドネシア人はのんびりとした暮らしを好み、何をすることにしてもゆっくりと行動する傾向があります。

日本をはじめとする他の国の人々は時間に厳しく、時間を大切にしていますが、私たちの時間の感覚はもっと大らかです。たいていの人は約束に遅れて来ますし、インドネシアではそれが当たり前なので、遅刻したからといって目くじら立てて怒る人はいません。

インドネシア人が「午後1時の待ち合わせね」と言えば、1時ちょうどではなく1時15分から30分

くらいに会おうね、という意味になります。

また、私たちは遅刻に慣れているので、たとえば友人と会う時間を決めたとしても、互いに了解の上で約束の時間の15分から30分後に行きます。全員が遅れてくるので、時間通りに行っても意味がありません。

インドネシア語には遅刻を意味する「ガレット」というスラングがあるのですが、これはゴムを意味する「カレット」をもじったものです。伸びるゴムのように時間も延びるもの。インドネシアの人々のそんな大らかな時間感覚が反映されたスラングです。